

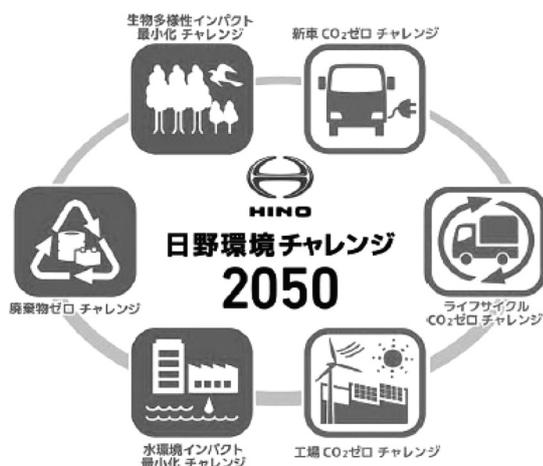
日野環境チャレンジ 2050 「工場 CO₂ ゼロチャレンジ」への取り組み

小林 武 (こばやし たけし) 日野自動車株式会社 生技開発部 生技開発室 計画グループ長

要約 日野自動車は2017年10月に「日野環境チャレンジ2050」を策定し、「工場CO₂ゼロチャレンジ（製品を生産する際に工場から排出されるCO₂をゼロにする）」に取り組んでいます。羽村工場での蒸気システム改善活動によって得られた経験、ノウハウをベースに、古河工場の新設時には、ヒートポンプを中心とした熱源システムを構築し、「蒸気レス」の工場を実現しました。日野自動車としては、「日常改善の加速」×「革新技术の導入（ヒートポンプ等の高効率電気システム導入）」×「再生可能エネルギーの活用（電気のCO₂フリー化）」により、この高い目標である「工場CO₂ゼロチャレンジ」を実現していきたいと考えています。

1. 日野環境チャレンジ2050への挑戦

2017年10月、日野自動車は将来の持続可能な社会の構築に貢献すべく、新たな長期目標として「日野環境チャレンジ2050」を策定しました。日野自動車はこれまで「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を会社の使命に掲げ、世界中のお客様のニーズに適したトラック・バスを提供することで、お客様のビジネスを支え、社会に貢献してきました。



「日野環境チャレンジ2050」は、地球温暖化、水不足、資源枯渇、自然破壊といったさまざまな地球環境問題に対して、商用車メーカーとして日野グループが成し遂げるべき6つのチャレンジとして掲げたものです。今回は、6つのチャレンジのなかの1つである「工場

CO₂ゼロチャレンジ」について、過去の省エネ・省CO₂活動事例とともに、この非常に高い目標を実現するためのこれまでの取り組みについて紹介いたします。

2. 羽村工場における省エネ活動

羽村工場は日野ブランドのトラックやトヨタブランドの乗用車などの生産を行っています。同工場では、コンプレッサーや待機電力のロス改善などの省エネ活動にわくえ、蒸気システムに対して抜本的な改善活動を実施しました。本活動は10年以上も前から実施されている活動ですが、本活動で得られた経験、ノウハウが現在の省エネ活動や新工場建設（3. 古河工場における取り組みにて詳述）に活かされています。

■羽村工場概要

操業 : 1963年
所在地 : 東京都羽村市
敷地面積 : 約75万m²
生産品目 : 小型トラック、トヨタ向け車両

2.1 蒸気システムの課題および蒸気システム改善活動

同工場では、多くの熱を必要とする一方で、新車種の開発やモデルチェンジに応じた素早い対応も求められるため、設置が容易で、初期投資の少ない蒸気シス